

区政Now！（平成28年5月号）

「区政は区民を幸せにするシステムである」・・・西川太一郎

発行：荒川区

1
月
ご
り
ん



先日、全国連携シンポジウムにパネリストとして参加し、特別区長会を代表して「特別区全国連携プロジェクト」のこれまでの取組や今後の連携の可能性について提案いたしました。今後も、全国の自治体と信頼関係・絆をさらに強化し双方が発展していけるような関係を築いてまいります。

また、第3回荒川区民総幸福度（GAH）推進リーダー会議では、荒川区の地域コミュニティを支える様々な分野のリーダーにお集まりいただき、幸福実感向上について分野ごとにグループディスカッションを行いました。区民の幸福度向上に繋がる御意見・御要望を多数いただき、区民の皆さまに「幸福度」が浸透してきていることを改めて実感しました。

今後とも区民の皆さまの幸福実感向上に取り組んでまいりますので、引き続き、御支援・御協力のほどよろしくお願いいたします。

全国連携シンポジウムにパネリストとして参加しました

4月26日、東京区政会館で開催された全国連携シンポジウムにパネリストとして参加してまいりました。シンポジウムは、全国遠隔自治体間連携の取組をさらに深めていくに当たり、自治体や国等の関係機関と方向性を共有し、全国に情報を発信することを目的としています。当日は、開催に先立ち、北海道町村会、京都府市長会、京都府町村会と特別区長会との間で、地域間の多面的な連携・協力を推進することを目的とした協定の締結式が行われました。



パネルディスカッションの様子

シンポジウムでは、「遠隔自治体間連携の可能性と展望」というテーマで、大杉覚首都大学東京 大学院教授、末宗徹郎内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長、棚野孝夫北海道町村会会長（白糠町長）、山崎善也京都府市長会副会長（綾部市長）らとともにパネルディスカッションを行いました。私からは、遠隔自治体間の連携は、近隣自治体間の連携や単独の自治体では解決できない課題に対応する選択肢の一つであり、それぞれの自治体が持つ地域資源や特性、機能等を相互に活用しながら、幅広い分野で連携、協力することで、地域の活性化や課題解決につながる大きな可能性があることを提案しました。

第3回荒川区民総幸福度（GAH）推進リーダー会議を開催しました

4月18日にサンパール荒川にて、第3回荒川区民総幸福度（GAH）推進リーダー会議を開催しました。

当日は、荒川区の地域コミュニティを支えるリーダーとして様々な分野でご尽力いただき、その日々の活動を通じてGAHの向上に取り組んでいらっしゃるGAH推進リーダーの皆様にご参加いただき、地域力（地域人材の確保と育成）をテーマに意見交換が行われました。



地域力について意見交換

今後とも、地域の皆さまと手を携えながら、区民の皆さまが幸福を実感できるような取組を進めてまいります。

主
な
事
業

放課後子ども教室事業（にこにこすくーる）を全小学校に開設しました

区では、放課後に小学校の校庭や体育館などを活用し、安全・安心な居場所を設ける「放課後子ども教室（にこにこすくーる）」を実施しています。

にこにこすくーるでは、次代を担う人材を育成するため、地域の協力を得て、多様な体験学習やスポーツ・文化活動を行うとともに、異学年交流を図っています。

平成19年度から事業を開始し、順次、各校へ整備してまいりましたが、平成28年度に新たに7校で開設し、区内全小学校（24校）への開設が完了となりました。

今後は、にこにこすくーると学童クラブを一体型で整備・運営し、体験プログラムを充実する「放課後子ども総合プラン」をさらに推進し、全校での実施を目指してまいります。



にこにこすくーるの様子

日暮里公園永久水利施設の完成披露式典と活用訓練を実施しました

4月17日、日暮里公園に整備した区内で5か所目となる「永久水利施設」の完成披露式典及び施設を活用した約700mの遠距離送水訓練を実施しました。

今回の訓練は、東京湾北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、東日暮里三丁目で火災が発生、断水により防火水槽の水が枯渇する恐れがあることを想定して実施されたものです。

当日は、防災区民組織や都立竹台高校、区立諏訪台中学校防災部の生徒など100名を超える方々が参加し、永久水利施設から吸い上げた地下水を、消防可搬ポンプ（D級ポンプ）やホース積載リヤカーを活用して送水及び一斉放水する訓練を行いました。

今後とも、防災区民組織や区内小中学校・高等学校、関係機関との連携を強化しながら、荒川区の地域力を活かした減災・防災対策の一層の充実に努めてまいります。



中高生も参加して一斉放水

荒川区防災アプリの配信が始まりました

4月から区では新たに「荒川区防災アプリ」の配信を始めました。災害時に活用するほか、いつ発生するか分からない災害の事前の備えとして活用いただくことを目的としています。

このアプリでは、スマートフォンやタブレットから荒川区防災地図や想定される浸水深等を確認できるほか、位置情報を含んだ安否を家族や知人へメールで通知することができます。さらに、災害発生時に通信が困難な場合であっても、地図で避難所等の位置情報を利用することができます。

今後とも、「災害でひとりの犠牲者も出さない」まちづくりを推進するとともに、災害発生時に備えた取組を進めてまいります。



アプリの画面イメージ

ダウンロード方法

AppStore、GooglePlayで「荒川区防災アプリ」を検索し、ダウンロードしてご利用ください。